

# 誰もが尊厳をもって生きられる社会に

## 和歌山・ジェンダー平等学習会での、こむら比例候補のあいさつ

3月29日、坂井希・日本共産党ジェンダー平等委員会事務局長を招いた和歌山女性後援会学習会「ジェンダー平等ってどんなこと？」での、こむら潤衆院比例近畿ブロック予定候補のあいさつ（大要）を紹介します。



### ●志位委員長の提起に感動

皆さん、こんにちは。衆議院比例近畿ブロックの予定候補、こむら潤です。4人の予定候補で唯一の女性です。よろしくお願いいたします。

さて、1月の日本共産党第28回大会で、本日テーマになっている「ジェンダー平等」社会の実現を目指すことが提起されました。私もこの大会に出席しておりまして、「ジェンダー平等社会の実現を」という志位委員長の言葉に兵庫チームの女性たちは、思わず涙ぐむという、それほど感動的な瞬間でした。志位委員長が結語で「1970年代、同性愛を性的退廃の一形態だと否定的に述べたことについて、この当時の党の認識が間違いであったことをこの大会の意思」として明確に表明したことに、私は特に感激しました。それは現在尼崎市議員の私が、2017年9月、議員になって初めての一般質問で、LGBT、性的マイノリティーに対する市の取り組みについて取り上げたことがあったからだと思います。

きっかけは、あるLGBTの当事者である党員のMさんです。わざわざ関東地方から市議団を訪問され、「人権を尊重する立場で、最も理解されると思っていた党組織に、理解されなかった失望から、これではいけないと全国の自治体の共産党議員さんを訪ねてLGBTについて知ってもらおうよう回っている」と話されました。Mさんの話のなかで印象に残る言葉があります。「LGBT当事者の人権が守られる社会になるには、まずその前に女性が社会の中で差別されることなく権利を保障されることが前提なのです」ということです。本当にその通りだ、と共感しました。

### ●就職・結婚・出産 途端に性差に直面

私自身、結婚や出産、子育ての中で悩んだり悔しい思いをした経験があります。それは恐らく、ほとんどの女性が無意識にも同じ経験をされていると思う、日本の社会ではごくありふれた事柄ばかりです。

例えば、小中学校の頃、将来の夢を持つときに私たちの世代ではもう「お嫁さんになりたい」とか「お母さんになりたい」という女の子はさすがにいませんでした。ケーキ屋さんや看護師、保育士、スチュワーデスなどです。今の子ども達は、ちょうど末娘が小学校を卒業し文集を見れば、ネイリスト、美容師、学校の先生、看護師、建築家、イラストレーターなどです。子どもの時、女の子は収入が少ないとか、産休や育休のことなど、誰も教えてくれません。クラスメイトの男の子と何が違うのか。しかし、就職や、結婚、出産となると、途端に性差に直面させられるのです。

実際、私の友人は、自分の特技を生かした会社で働いていたのに、結婚し出産で産休を取ったら、産後の復帰は前例がないと言われ、やめざるを得ませんでした。おまけに保育園は仕事をしていないからと入れてもらえず、彼女は二重の挫折を味わい、産後うつで治療が必要になってしまいました。自分が生きがいとしてきた仕事を奪われることは、アイデンティティーを否定されたも同然だと私は思うのです。

### ●誰もがその人らしく生きられる社会を

私も3人の子の母親ですが、今でこそ夫も分担して家事や子どもの学校行事などこなしていますが、若い頃は「共働きなのにどうして私ばかり洗濯や食器の片づけをしないといけないのか」とイライラを募らせてきました。小さいようで、実はこういう些細なところに、ジェンダーの問題は、そこそこに隠れているものではないでしょうか。もちろん、男性にもジェンダーの課題はあると思います。女性も男性も、本当に複雑にジェンダーが絡み合いながら私たちは生活しているのだと思います。

私は、誰もがその人らしく、人間としての尊厳を守られ認められる社会を作りたいと思っています。ジェンダーギャップ指数世界で121位の日本社会を変えていくために、私も国政で女性議員として力を尽くしたいと思います。近畿から比例4人全員を押し上げていただきますよう、よろしくお願いいたします。そして、ごあいさつといたします。

20近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中】

No. 23(2020.3.30)